

Iiji

Myoubaru

飯氏古墳群 3・女原古墳群 1

- 今宿古墳群関連確認調査報告 -



2011

福岡市教育委員会

序

福岡市は大陸に近いという地理的条件から、文化の流入拠点、大陸との貿易基地として古くからの歴史を有しています。とりわけ、市域の西部に位置する今宿平野は「魏志倭人伝」にある「伊都国」に含まれることもあり、対外交渉を示す数々の貴重な遺跡が残されています。古墳時代では首長墓系列である国史跡今宿古墳群を筆頭とした多数の古墳が確認されており、この地域が国内外の対外交渉の拠点であったことを示すものと考えられています。

これまで福岡市教育委員会ではこれらの古墳の歴史的意義付けと保護のための確認調査を行ってきました。今回報告する飯氏古墳群及び女原古墳群の調査はその一環で行われたもので、古墳の現況や遺存状況を把握することができました。本書が文化財保護のより一層のご理解の一助となり、学術研究の資料として活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、地権者をはじめとする関係各位のご協力に厚くお礼申し上げます。

平成23年3月18日

福岡市教育委員会
教育長 山田 裕嗣

例言

1. 本書は国庫補助金を得て実施した、国史跡今宿古墳群周辺の古墳群の確認調査のうち、2008、2009年度に実施した飯氏古墳群B群3次、女原古墳群D群1次の報告である。
2. 古墳群の調査報告書の書名及び番号については、今宿地区の古墳群には多くの支群があるが、今後は古墳群ごとで番号をとり、支群ごとではとらないこととする。したがって、本書の「飯氏古墳群3」は「飯氏古墳群B群14号墳調査報告書」(1998 市報584集)、「飯氏古墳群B群14号墳調査報告書(2)」(1999 市報615集)に続くものである。なお、国史跡今宿古墳群である「飯氏二塚古墳」及び「兜塚古墳(飯氏古墳群A群1号墳)」の調査報告書はそれには含まない。
3. 本書に使用した遺構実測図は菅波正人が、遺物実測図は熊埜御堂和香子が行った。トレースは熊埜御堂が行った。古墳の分布図は市史編さん室調査委員の宗 建郎氏に作成を依頼した。
4. 本書に使用した写真は菅波、空中写真は(株)写測エンジニアリングが撮影した。
5. 本書に使用した座標は国土座標第II系を使用し、本書に使用した方位は磁北及び座標北である。
6. 本書の執筆・編集は菅波正人が行った。
7. 今回報告する出土遺物および遺構、遺物の記録類は福岡市埋蔵文化財センターにおいて収蔵・管理される予定である。

| 調査番号 | 調査次数 | 担当者 | 所在地 | 分布地図番号 | 調査期間 | 調査面積 | 遺跡の時代 |
|------|-----------|-----|------|----------------|------------------|---------------------|-----------------|
| 0856 | 飯氏古墳群B群3次 | 菅波 | 西区飯氏 | 121 飯氏 0699 | 2009.2.9 ~ 3.18 | 30m ² | 古墳時代 (5~6世紀) |
| 0936 | 女原古墳群D群1次 | 菅波 | 西区女原 | 121 飯氏 0716 | 2010.2.16 ~ 3.12 | 1,620m ² | 古墳時代 (6~7世紀) |

目次

| | |
|--------------------|----|
| I はじめに | |
| 1. 調査に至る経緯 | 1 |
| 2. 調査の組織 | 1 |
| 3. 今宿古墳群の概要 | 3 |
| II 飯氏古墳群B群3次調査の記録 | |
| 1. 調査地点の位置と周辺の古墳 | 6 |
| 2. 調査の記録 | 6 |
| 3. 小結 | 13 |
| III 女原古墳群D群1次調査の記録 | |
| 1. 調査地点の位置と周辺環境 | 22 |
| 2. 調査の記録 | 22 |

I はじめに

1. 調査に至る経緯

福岡市の西部、博多湾西側には今宿平野と呼ばれる小平野が所在する。東西3 km、南北1.5 kmに及ぶ平野部とその背後にある丘陵部には、11基の前方後円墳と350基以上の群集墳が良好に残存し、ひとつの古墳群を形成している。そのうち、丸隈山古墳、今宿大塚古墳、鈴崎古墳の3基はそれぞれ国史跡として指定されていた。一方で、福岡市教育委員会ではこの地域の古墳の重要性を鑑み、昭和55年以降、平野内の前方後円墳について確認調査等を継続的に実施し、その内容の確認に努めてきた。その結果、平成16（2004）年4月5日、先の3基の古墳に加え、新たに4基の前方後円墳（山ノ鼻一号墳、若八幡宮古墳、兜塚古墳、飯氏二塚古墳）が追加指定され、その名称を「今宿古墳群」に変更し、一体的に保護を図ることになった。これを受け、周辺の古墳の更なる保護を進めるため、平成16年度より今宿平野に分布する古墳群の分布調査及び確認調査を実施した。分布調査は平野の後背地となる高祖山山麓から丘陵末端にかけての、西は飯氏地区、東は長垂地区までの間を対象に行つた。調査はこれまでの遺跡分布図を基にGPSを用いて位置情報を記録し、分布地図の修正や新たに発見された古墳の追加、現況の写真撮影などを行つた。これらによりこの地域の古墳群の現況を把握するとともに、新たに150基程度の古墳を確認することができた。平成20年度からは各古墳群の内容を確認するために、現況測量や主体部の状況の記録をする調査を実施した。

今回報告する飯氏古墳群B群3次及び女原古墳D群1次調査は平成20、21年度に実施した重要確認調査である。調査では地権者及び地元の方々のご協力を得た。記して謝意を表する。

2. 調査の組織

調査主体 福岡市教育委員会

教育長 山田裕嗣

文化財部長 宮川秋雄

調査庶務 文化財整備課（調査時）

課長 秋吉 誠

管理係長 白川国俊

管理係 山本朋子

埋蔵文化財第1課

課長 濱石哲也

管理係長 田中龍三郎

管理係 古賀とも子

調査総括 埋蔵文化財第2課

課長 田中寿男

調査第1係長 杉山富雄

調査担当

主査 菅波正人

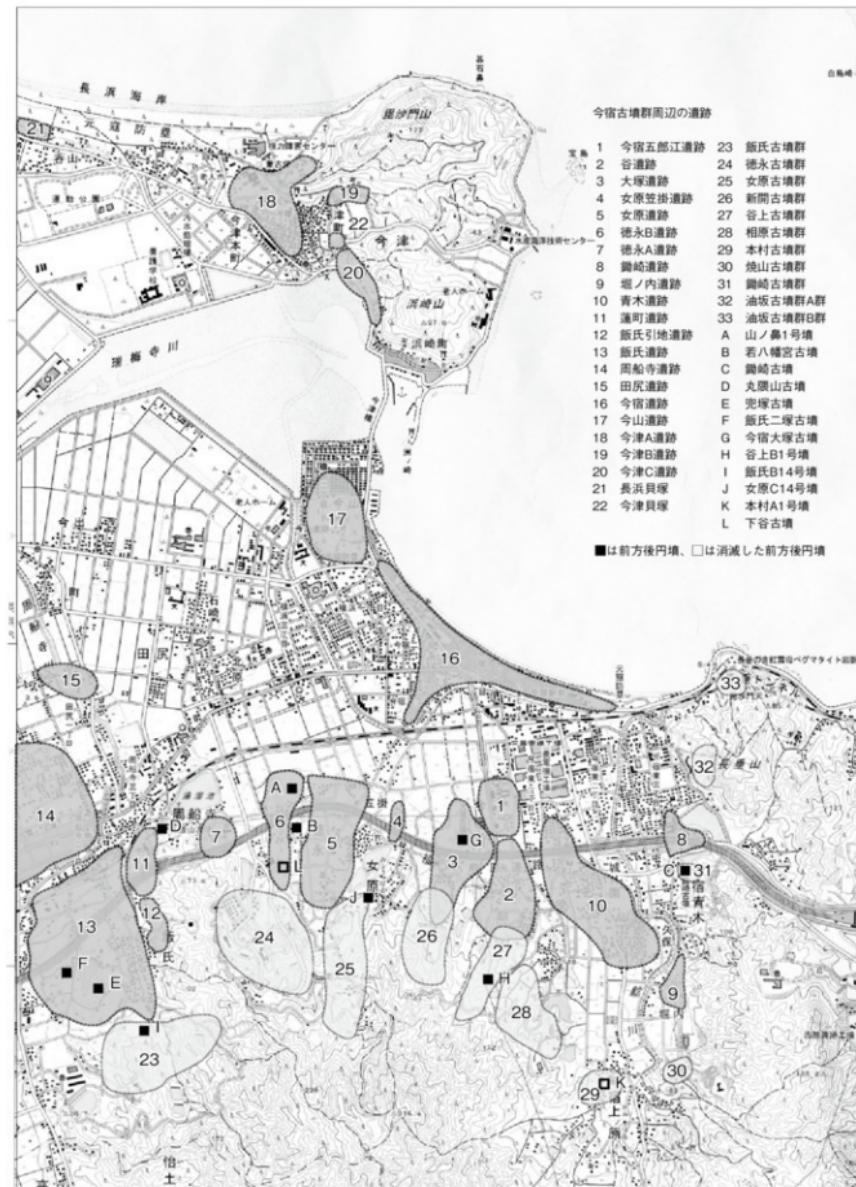


Fig. 1 今宿古墳群位置図 (1 / 25,000)

3. 今宿古墳群の概要

平成 16 年度に統合・追加指定された国史跡今宿古墳群は 7 基の前方後円墳からなる。これらの古墳は 4 世紀半ばから 6 世紀前半までの約 150 年間にわたるもので、古墳時代を通じて同一地域の中で継続的に築造された前方後円墳という全国的に珍しい例である。更に、初期の横穴式石室をもつものや甲冑を保有するものも見られる。この地域が国内外の対外交渉の拠点に位置していることを考えると、これらの古墳は九州北部地域における古墳時代の政治動向にとどまらず、大陸や畿内との関わりを知る上でも重要なものといえる。

個々の古墳の概要を見ていくと、山ノ鼻一号墳は 4 世紀半ばで、古墳群の中では最も古く位置付けられ、全長は 37 m を測る。若八幡宮古墳は 4 世紀後半で、古墳群の中央に位置し、全長 47 m を測る。木棺直葬の主体部からは三角縁神面鏡や方形板革綴短甲等が出土した。4 世紀後半の鷺崎古墳はこの古墳群では東端に位置し、全長 62 m を測る。主体部に採用されている横穴式石室は列島における出現期のもので、長方板革綴短甲をはじめとする武器類や青銅鏡などの副葬品は、前期から中期への過渡的な状況を示す貴重な例である。5 世紀前半の丸隈山古墳は全長 84.6 m を測り、墳丘規模はこの古墳群最大である。江戸期に開口していた主体部は鷺崎古墳に次ぐ型式の横穴式石室である。鐵製二神ニ獸鏡や巴形銅器などの副葬品や水鳥、盾などの形象埴輪が出土している。兜塚古墳は古墳群の西側に所在し、築造時期は 5 世紀後半で、前方部の一部が損壊を受けているが葺石、埴輪もち、全長 53 m 以上を測る。横穴式石室からは馬具や玉類、鉢留短甲と考えられる鉄片などが出土している。飯氏二塚古墳は古墳群の西端に位置する。時期は 5 世紀末から 6 世紀初頭で、全長は 48 m を測り、横穴式石室からは金銅製馬具や玉類が出土している。6 世紀前半の大塚古墳は全長 64 m で、盾形の二重の周濠を含めた規模は約 100 m に達する。主体部は未調査であるが、周濠からは多量の円筒埴輪や形象埴輪の出土を確認している。そして、6 世紀前半以降は、前方後円墳は築かれるものの 20 ~ 40 m 程度の小型のものとなり、立地も丘陵上に移動する。谷上古墳群 B-1 号墳や飯氏古墳群 B-14 号墳などはそれにあたるものである。また、前方後円墳に見られる変化と並行して、丘陵部の群集墳の形成もこの時期より盛んになり、首長の在り方の変化や地域社会の再編などを窺わせる。

平野内の群集墳は分布調査の結果、500 基ほどとなり、西から飯氏、徳永、女原、新開、谷上、相原、本村、焼山、油坂、鷺崎古墳群が分布する。それぞれの古墳群はいくつかの支群から形成される。

飯氏古墳群は高祖山の北西側の丘陵に広く分布する。丘陵の北側には飯氏二塚古墳、兜塚古墳が立地する。また、B 群 14 号は全長約 24 m の前方後円墳で、6 世紀中ごろに位置づけられる。徳永古墳群は高祖山から北側に延びる丘陵上のうち、徳永の集落の西南側にあたる谷を挟む丘陵に分布する。丘陵の先端には山ノ鼻一号墳、若八幡宮古墳が立地する。女原古墳群は徳永古墳群から谷を隔てて東側丘陵の西側斜面に分布する。このうち、C 群 14 号墳は全長 30 m 程の前方後円墳と考えられているが、詳細は不明である。新開古墳群は女原古墳群が立地する丘陵の東側斜面を中心に分布する。C 群の範囲内には須恵器の窯址である新開窯址群が確認されている。谷上古墳群は新開古墳群の谷を挟んで東側の丘陵上に立地する。B 群 1 号墳は全長約 37 m の前方後円墳で、6 世紀前半から中ごろに位置づけられる。相原古墳群は谷上古墳群の谷を挟んで南東にあたる。本村古墳群は相原古墳群の南東に位置する。A 群 1 号墳は全長 30 m 程の前方後円墳とされるが、墳丘は削平されている。鷺崎古墳群は長垂山の西側の丘陵斜面にあたる。鷺崎古墳の周辺に分布するものである。古墳以外では 7 世紀～8 世紀に位置づけられる横口式の炭窯、製鉄炉などが検出されている。

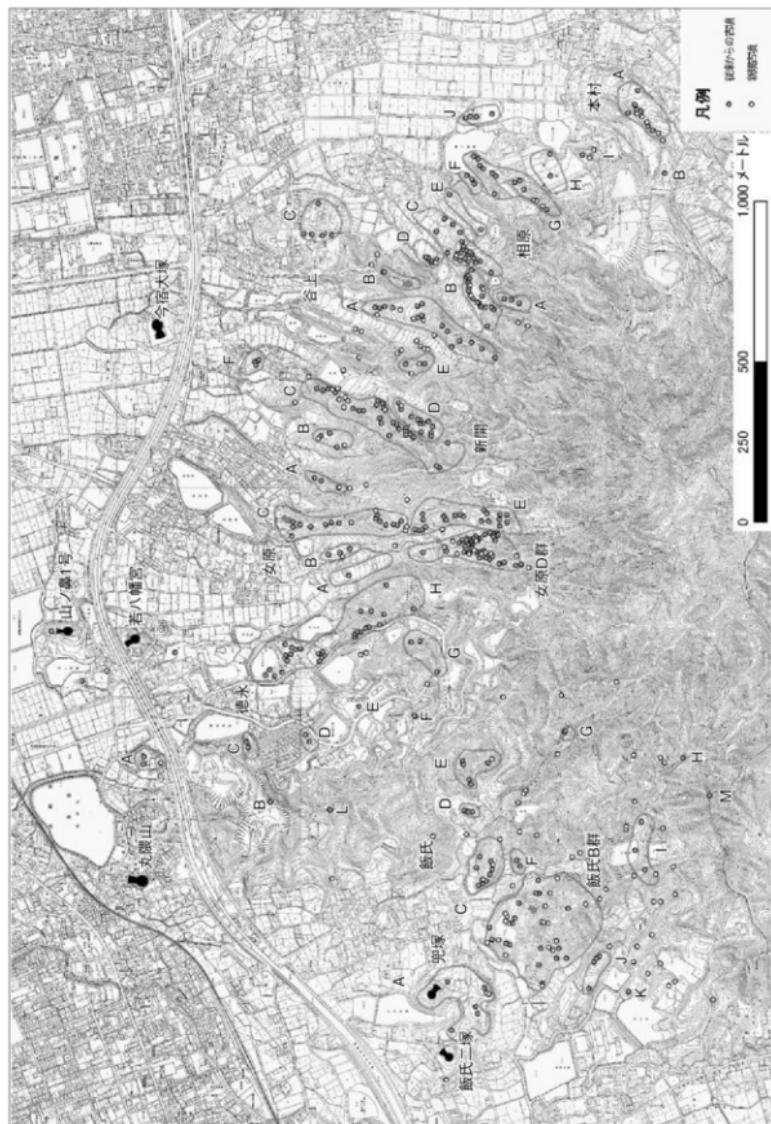


Fig. 2 今宿古墳群周辺古墳分布図 (1/15,000)



1 今宿平野遠景 1 (南から)



2 今宿平野遠景 2 (西から)



3 今宿平野遠景 3 (北から)

II 飯氏古墳群B群3次調査の記録

1. 調査地点の位置と周辺の古墳

調査地点は飯氏古墳群の内のB群に含まれる。飯氏古墳群は高祖山から北西側に派生する丘陵に広く分布し、丘陵の北端には兜塚古墳、飯氏二塚古墳といった前方後円墳が立地する。この古墳群ではこれまでの分布調査でAからMまでの13支群55基が知られていた。平成16年度からの分布調査で新たに44基が確認され、計99基の古墳からなる古墳群であることが判明した。古墳群内での調査は兜塚古墳、飯氏二塚古墳を除くと、後述する飯氏古墳群B群14号墳の調査があるのみである。しかし、明治期の国学者である江藤正澄の収集資料に怡土郡飯氏村出土の遺物がいくつか見られる。その内、古墳時代のものとしては、銅鏡、單龍環頭大刀、六鈴鏡がある。現存するものは六鈴鏡のみ（神宮徵古館所蔵）であるが、江藤の残した記録（『随神屋集古図説』九州大学附属図書館所蔵）を見ると、銅鏡は多面体の形態で、馬鈴と考えられる。6世紀中ごろのものであろう。單龍環頭太刀は鍛金が残り、法量は縱一寸四分五厘、幅二寸（縱4.4cm、巾6.1cm）とある。この地域ではこの種の環頭太刀が多く分布しており、糸島市（旧前原市）古賀崎古墳、福岡市柔原石ケ元古墳で单龍、單鳳の環頭太刀が出土している。六鈴鏡は一部欠損しているが、背面には6個の乳とそこから伸びる脚状の細線の文様が鉢の周りを巡る。面径10.8cmを測る。同様の文様をもつものとして、福岡市西区夫婦塚一号墳出土の五鈴鏡がある。6世紀代に位置付けられる資料である。特定は困難であるが、これらは飯氏古墳群のいずれかの古墳から出土した可能性が高い。

今回調査を行ったB群は飯氏二塚古墳、兜塚古墳の狭い谷を挟んだ南西側の丘陵にあたる。B群はこれまで18基が知られていたが、新たに21基が確認され、計39基となった。ここには前方後円墳が1基含まれ、B群14号墳（後はB 14号墳と称す）は南東から延びる丘陵尾根線から北東に派生する小さな尾根上に立地する。後円部頂部の標高は約64mを測る。築造の時期は6世紀中ごろで、全長約24.5m、後円部径17.0m、前方部長14.2m、くびれ部幅9.8mを測る。主体部は单室両袖の横穴式石室で、主軸方位N-64°-Wで北西に開口する。玄室の平面形は長方形を呈し、奥壁幅2.0m、側壁長2.92～3.34m、羨道長2.92～3.06mを測る。石室から須恵器、土師器、耳環、ガラス玉、馬具、鉄鎌などが出土した。B 14号墳は今宿古墳群に続く時期の前方後円墳であるが、規模や立地がそれらとは異なり、この地域の首長系列を考える上でその位置付けが注目される。

2. 調査の記録

1) 調査の経過

今回の調査は飯氏古墳群B群におけるB 14号墳の位置づけを考えるために、周囲の古墳群の様相を確認することになった。B 14号墳の北側には小型の竪穴系の石室が開口していた。形態からB 14号墳に先行する可能性が高く、それらについて墳丘の測量、石室の実測などを行った。調査を行ったものは12号墳、13号墳である。現況はヒノキの山林で、標高は約47m前後を測る。周辺測量の過程で13号墳の西側に花崗岩の板石の散布を確認した。埋没した古墳の可能性もあり、その場所にトレーンチを設定したところ、小型の石室を1基検出した。また、12号墳の北側で新たに発見された古墳の現況写真的撮影をおこなった。調査は平成21年2月9日から開始し、測量、墳丘のトレーンチ調査、

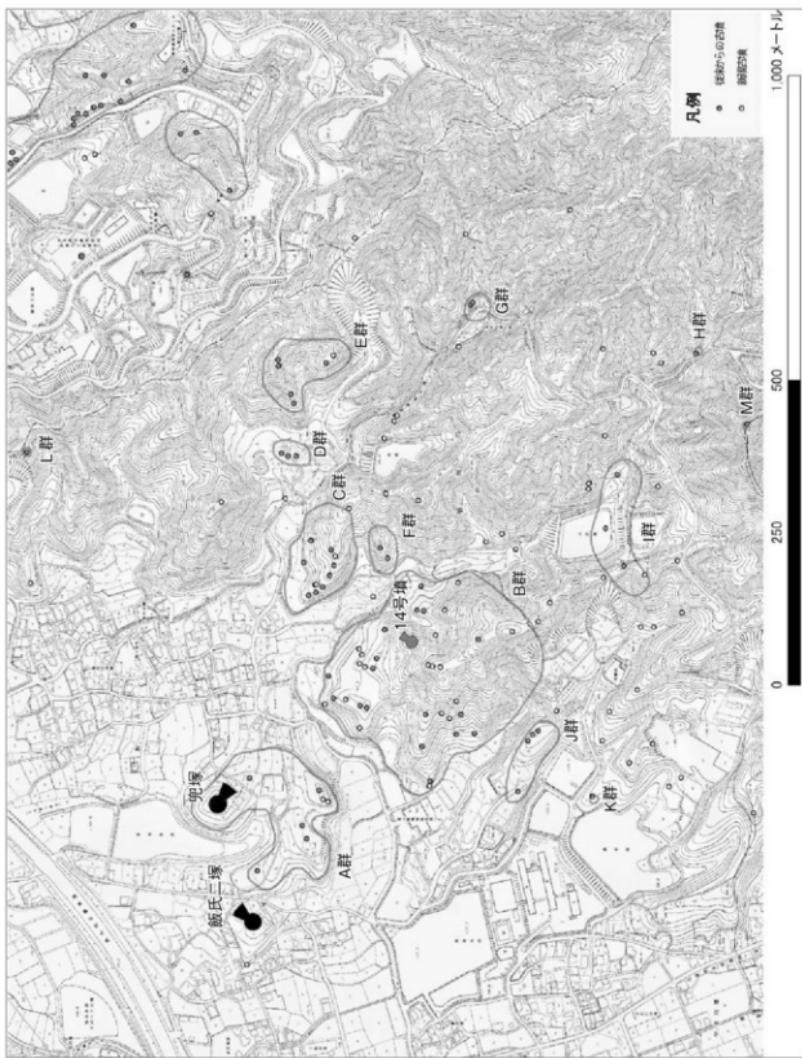




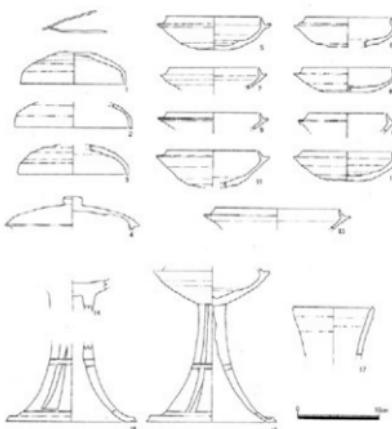
Fig. 4 飯氏古墳群 B 群 3 次調査位置図 (1/5,000)



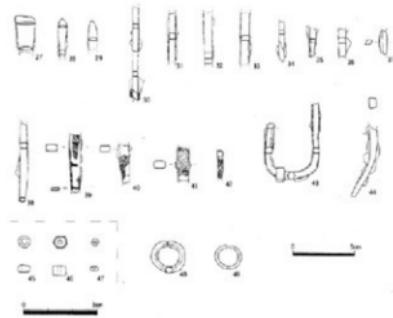
填丘測量図



石室実測図



出土土器実測図



出土鐵器類実測図

Fig. 5 飯氏 B14 号填填丘及び石室実測図 (1/400, 1/200, 1/6, 1/4, 1/2)

0 10m

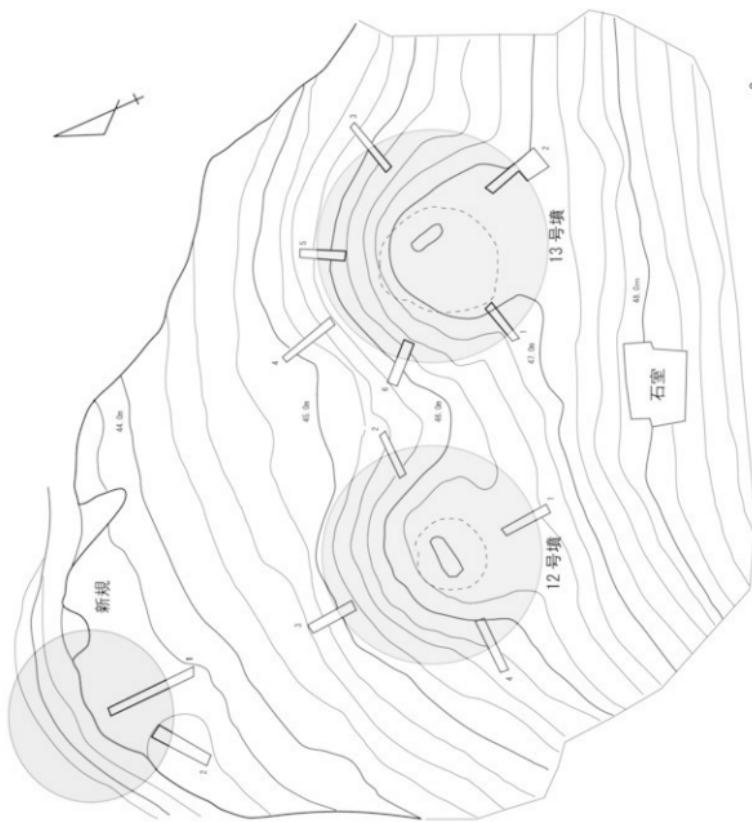


Fig. 6 旌氏古墳群 B 群 3 次調査地点現況測量図 (1/250)

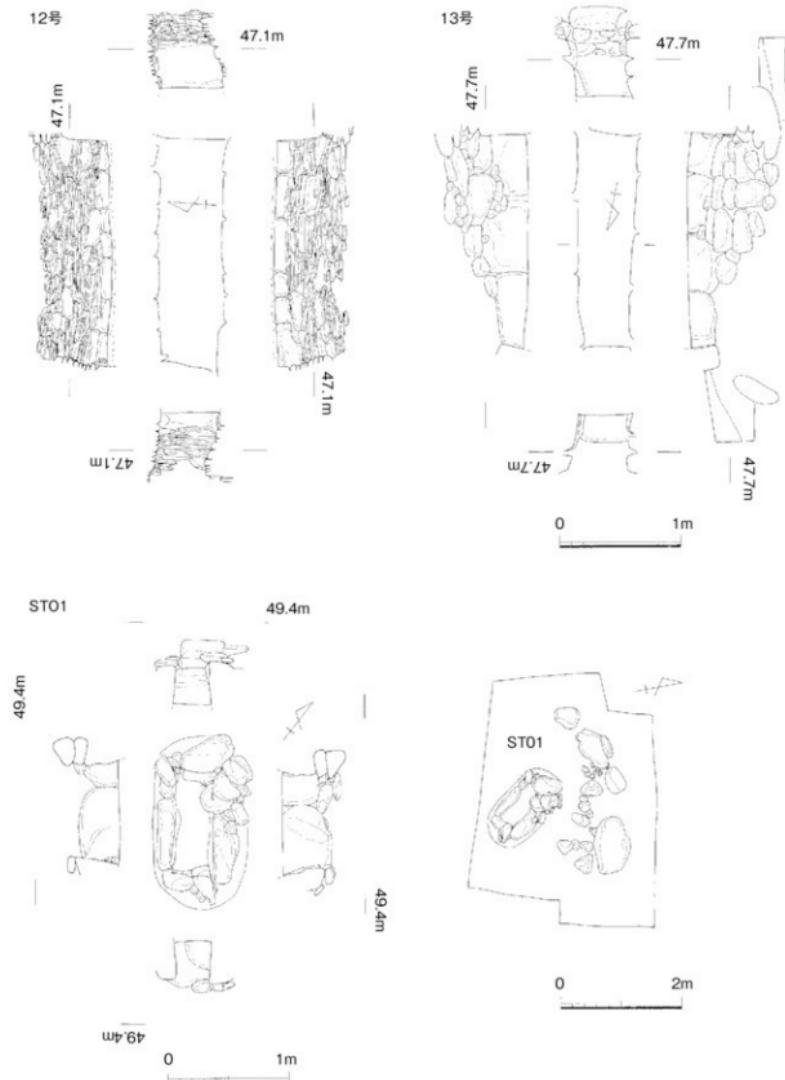


Fig. 7 飯氏古墳群 B12、13 号墳石室及び ST 01 実測図 (1/40)

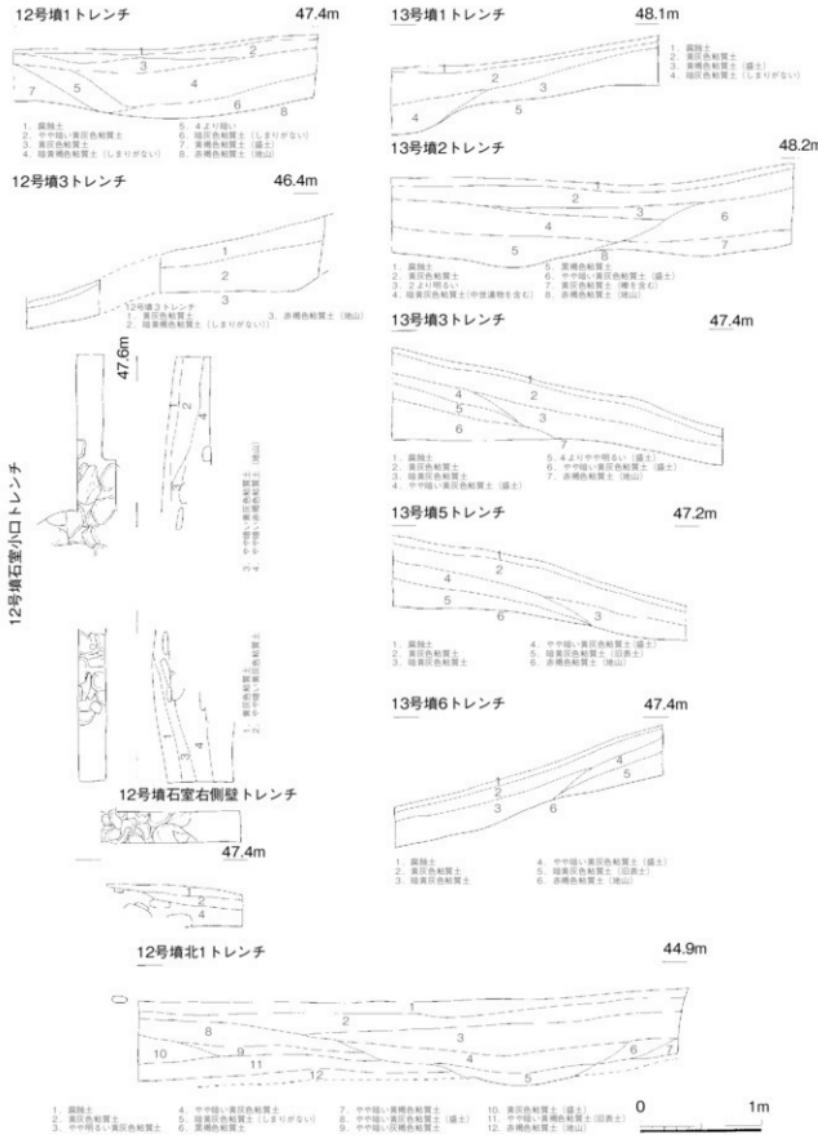


Fig. 8 飯氏古墳群B 12、13号填塗丘土層図実測図 (1/40)

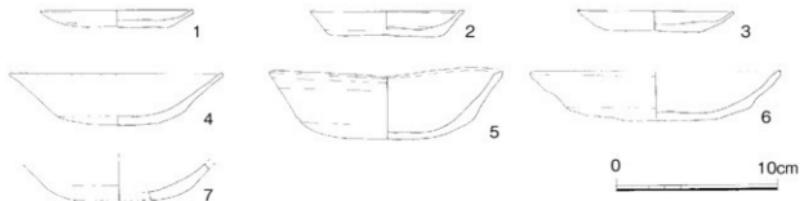


Fig. 9 飯氏古墳群B 13号墳トレンチ出土遺物実測図（1/3）

石室の清掃・実測を行った後、トレンチ、石室を埋め戻して同年3月18日に終了した。

2) 検出した構造と遺物

12号墳 墳丘規模直径約10m、墳丘高は約0.6～0.8mを測る。主体部はいわゆる堅穴系横口式石室に分類される小型の石室で、天井部は抜き取られている。主軸方位はN85°Eをとり、石室長約1.85m、幅0.55、0.45mで、やや羽子板形の平面形を呈する。石室の現存高は0.6mを測る。石室構造は一方の小口部の壁には高さ40cm、もう一方の小口および側壁には高さ20cmほどの花崗岩の腰石を巡らせる。腰石より上は玄武岩の板石小口積みである。横口部は確認できなかつた。小口部の構造の違いから西側は玄門を意図したものと考えられる。石室内からは遺物は出土しなかつた。出土遺物は墳丘からは須恵器、土師器の小片が出土した。

13号墳 墳丘規模直径約10m、墳丘高は約0.6～0.8mを測る。主体部はいわゆる堅穴系横口式石室に分類される小型の石室で天井部は抜き取られている。石室長約1.8m、0.5、0.35mで、やや羽子板形の平面形を呈する。石室の現存高は0.9mを測る。石室構造は一方の小口部の壁には高さ40cm、もう一方の小口および側壁には高さ20cmほどの花崗岩の腰石を巡らせる。腰石より上は塊石を積む。横口部は確認できなかつた。石室内からは遺物は出土しなかつた。墳丘のトレンチ2からは土師器の杯、小皿、鉄釘などが出土した。出土状況から中世期の墓の可能性が高い。土師器の杯、小皿はヘラ切りで、杯は器高3.0～4.0cm、口径13.2～15.4cm、小皿は器高1.0～1.4cm、口径9.4cmを測る。出土遺物はこの他に須恵器、弥生土器の小片が出土した。

ST01 13号墳の西側に位置する。表面に花崗岩の板石が散布していたことから、その周囲を精査し、小型の石室を検出した。石室の天井石は移動していたが、主軸方位N36°Wをとり、長さ0.9m、幅0.3m、現存高0.5mを測る。石室から遺物は出土しなかつたが、周辺で須恵器片などが出土した。

3) 小結

石室の形態から12号墳から13号墳への変遷と捉えることができる。また、12号墳北側の新規（新規8）の古墳も低墳丘で同様の石室を持つことから、一連の古墳群と捉えることができる。時期は出土遺物が少なく特定できないが、5世紀後半から6世紀前半の時期幅の中に位置づけられ、6世紀中ごろのB 14号墳に先行するものと考えられる。B群では西側の尾根線上に立地する1号墳などでも板石の石材の散布が見られ、やはり5世紀代に遡る可能性が高い。それらのことからB群はB 14号墳の築造以前の5世紀後半には古墳群の形成が始まったと捉えることができよう。つまり、飯氏古墳群においては丘陵部への小型の前方後円墳の築造と群集墳の出現は必ずしも一致しないと考えられる。今宿古墳群以後の前方後円墳の位置づけと群集墳との関係は500基及ぶ群集墳の形成過程の解明につながるものであり、今後更に進める必要があると考えられる。

飯氏古墳群B群一覧

| 番号 | 墓石の 形状 | 碑丘形 | 墳丘規格 (m) | 墳丘高 (m) | 主体部 形 | 主体部長 (m) | 玄室高 (m) | 主体部幅 (m) | 主体部高 (m) | 石室開口 方向 | 主軸 方位 | 埴丘周囲 | 主体部周囲 | 備考 | 後件 X | 後件 Y |
|-------------|-----------|------|-------------|------------|------------------|-------------|------------|-------------|-------------|------------------|-----------------|----------------------------------|--|--|-----------|-----------|
| 1 1号墳 | 円頂 | 13.6 | | | 不明 | | | | | 南 | | 埴丘部に施設跡あり 石材が敷か | 赤色調料がついた石材が敷か | 62165.619 | 49310.309 | |
| 2 2号墳 | 円頂 | 10.0 | | | 横六式 石室 | | | | | | | 石材が敷き取り | | 62194.061 | 49434.097 | |
| 3 3号墳 | 円頂 | 7.5 | | | 横六式 石室 | | | | | 西 | | 馬蹄形周 | 石材が敷き取り | 62201.672 | 49466.137 | |
| 4 4号墳 | 円頂 | 8.4 | 1.8 | | 横六式 石室 | | | | | 北西 | | 上半は壊れる | | 62171.799 | 49465.367 | |
| 5 5号墳 | 円頂 | 11.0 | 2.5 | | 横六式 石室 | | | 2.7 | 1.3 | 南東 | | 馬蹄形周 | 石室上半が削平、側壁に持ち込み | 62252.111 | 49433.817 | |
| 6 6号墳 | 円頂 | 10.0 | 1.0 | | 不明 | | | | | 南 | | 埴丘に施設跡あり、 馬蹄形周 | 石材なし、初期古墳か | 62258.324 | 49466.132 | |
| 7 7号墳 | 円頂 | 8.0 | | | 横六式 石室 | | | | | 西 | | 埴丘の一部が削平、馬蹄形周 | 石材の一部が露出 | 62245.041 | 49542.565 | |
| 8 8号墳 | 円頂 | 12.0 | 2.5 | | 横六式 石室 | | | | | | | 埴丘底に径2.0mの 盗洞跡、北側埴丘に 石材敷か | | 62348.552 | 49422.773 | |
| 9 9号墳 | 円頂 | 9.0 | 1.5 | | 横六式 石室 | | | | | | | 埴丘底に径1.5mの 盗洞跡 | | 62359.887 | 49418.855 | |
| 10 10号 墳 | 円頂 | 15.0 | | | 横六式 石室 | | | | | 南 | | 馬蹄形周 | 石材を敷き、抜き 戸の間隔6×4m | 62403.510 | 49406.833 | |
| 11 11号 墳 | 円頂 | 10.5 | 3.0 | | 横六式 石室 | | | | | 上半削平 | | 埴丘に石材敷か | | 62412.277 | 49370.229 | |
| 12 12号 墳 | 円頂 | 10.0 | 1.2 | | 聖斗系 横六式 石室 | 1.85 | | 0.55 | | | | 馬蹄形周、外縁列石 | 天井部は焼損、石材 を4～5枚重ねし、小 口部の一方は不明、 石材系小石室 | 62338.938 | 49356.944 | |
| 13 13号 墳 | 円頂 | 10.0 | 1.0 | | 聖斗系 横六式 石室 | | 1.8 | | 0.5 | | | 馬蹄形周、外縁列石 | 天井部は焼損、石材 を4～5枚重ねし、小 口部の一方は不明、 石材系小石室 | 62333.324 | 49340.692 | |
| 14 14号 墳 | 前方 後円頂 | 24.5 | | | 横六式 石室 | 6.2 | 3.2 | 2.0 | 3.0 | 北 | | | 埴丘頂 | | 62273.281 | 49317.077 |
| 15 15号 墳 | 円頂 | 16.0 | 5.0 | | 横六式 石室 | | | | | 西 | | 天井部、埴丘上部に 盗洞跡、馬蹄形周 | 石室の一層露出 | 62319.665 | 49294.208 | |
| 16 16号 墳 | 円頂 | 8.0 | 0.5 | | 不明 | | | | | | | 埴丘のほとんどが削 平、馬蹄形周 | 完全に削平 | 62260.027 | 49222.886 | |
| 17 17号 墳 | 円頂 | 12.0 | 2.0 | | 横六式 石室 | | 1.8 | 1.1 | 1.5 | 南 | | | 石室天井部欠損 | 6世紀 前半～ 中期か | 62254.573 | 49603.370 |
| 18 18号 墳 | 円頂 | 7.5 | 0.5 | | 横六式 石室 | | | | | | | 埴丘の木半が削平、 中央に施設跡 | 埴丘底に石材隙合 | 62266.430 | 49361.867 | |
| 19 新規1 | 円頂 | 9.0 | 0.5 | | 不明 | | | | | | | 埴丘の2/3削平、馬 蹄形周 | 完全に削平 | 62417.881 | 49416.522 | |
| 20 新規2 | 円頂 | 9.0 | 1.5 | | 不明 | | | | | | | 上部のほとんどが削 平、中央に径1.0m程 の盗洞跡 | 埴丘底に石材？ | 62363.789 | 49408.557 | |
| 21 新規3 | 円頂 | | 0.8 | | 不明 | | | | | | | 埴丘の力半削平、確 かに削る | 中央にくびみ | 62378.981 | 49359.249 | |
| 22 新規4 | 円頂 | 7.0 | 0.5 | | 不明 | | | | | | | 埴丘の木半が削平、 馬蹄形周 | | 62361.520 | 49326.490 | |
| 23 新規5 | 円頂 | 6.0 | 0.5 | | 不明 | | | | | | | 埴丘のほとんどが削 平、上部に残るが一点 敷か | | 62361.235 | 49455.937 | |
| 24 新規6 | 円頂 | 9.5 | | | 不明 | | | | | | | 埴丘の3/4削平、馬 蹄形周 | 完全に削平 | 62361.047 | 49349.820 | |
| 25 新規7 | 円頂 | 8.0 | 0.5 | | 不明 | | | | | | | 埴丘の3/4削平、馬 蹄形周 | 完全に削平 | 62357.455 | 49305.049 | |
| 26 新規8 | 円頂 | 8.5 | | | 聖斗系 横六式 石室 | 2.5 | | 0.7 | | | | 埴丘の1/2削平 | 石室が裏面に貫出、 石材系小石室 | 黄 記で 内 容 を 記 載 す る 事 無 い と 思 う が そ れ を 保 蔵 | 62352.218 | 49354.775 |
| 27 新規9 | 円頂 | 4.5 | 1.0 | | 不明 | | | | | | | 上半削平 | 埴丘底に石材あり | | 62249.207 | 49301.850 |
| 28 新規10 | 円頂 | 5.0 | | | 横六式 石室 | | | | | | | 埴丘の木半削平、馬 蹄形周 | 石室の一層露出 | | 62246.051 | 49561.092 |
| 29 新規11 | 円頂 | 7.5 | 1.5 | | 不明 | | | | | | | 埴丘の2/3削平、確 かに削る | 塊が露出 | 62241.390 | 49354.481 | |
| 30 新規12 | 円頂 | 7.0 | 0.5 | | 不明 | | | | | | | 埴丘のほとんどが削 平、上半削平、確かに 削る | 完全に削平 | 62236.342 | 49303.403 | |
| 31 新規13 | 円頂 | 12.0 | 1.5 | | 不明 | | | | | | | 上半削平 | 石材敷か、裏面に赤 色調料？ | 62227.531 | 49356.437 | |
| 32 新規14 | 円頂 | 8.0 | | | 横六式 石室 | | | | | 南 | | 中央に径3.0mの強 き穴あり | | 62226.039 | 49431.845 | |
| 33 新規15 | 円頂 | 5.5 | | | 横六式 石室 | | | | | | | 馬蹄形周 | 石材は抜き取り | 62213.437 | 49404.494 | |
| 34 新規16 | 円頂 | 10.0 | | | 聖斗系 横六式 石室 | | | | | 中央に抜き穴あり、 石材敷 | 石材は抜き取り、石 材敷 | | 62202.469 | 49412.081 | | |
| 35 新規17 | 円頂 | 10.0 | 1.5 | | 横六式 石室 | | | | | 西 | | 天井部と裏面に上部に 盗洞跡、馬蹄形周 | 天井石材抜き取り、 裏面のみ石材敷か | 62221.203 | 49362.132 | |
| 36 新規18 | 円頂 | 12.5 | 3.0 | | 横六式 石室 | | | | | | | 埴丘底に埴底板、馬 蹄形周 | 石材抜き取り、裏面 の石材敷か、埴底の 一層が剥離か | 62199.074 | 49217.480 | |
| 37 新規19 | 円頂 | 12.0 | | | 不明 | | | | | | | 石材か | | 62110.342 | 49296.627 | |
| 38 新規20 | 円頂 | 13.7 | 2.0 | | 不明 | | | | | | | 埴丘に浅い舟状跡の くぼみが3つあり | 木棺直葬か | 62066.622 | 49281.279 | |
| 39 新規21 | 円頂 | 18.7 | | | 不明 | | | | | | | 木棺直葬か | | 62048.222 | 49250.388 | |



1 飯氏古墳群B12号墳現況 (西から)

3 飯氏古墳群B12号墳石室草刈り後 (東から)

5 飯氏古墳群B13号墳現況 (南から)

7 飯氏古墳群B13号墳石室草刈り後 (北から)

2 飯氏古墳群B12号墳石室現況 (東から)

4 飯氏古墳群B12号墳石室掘り下け風景 (西から)

6 飯氏古墳群B13号墳石室現況 (北から)

8 飯氏古墳群B13号墳石室掘り下け風景 (北から)



1 飯氏古墳群B 12号墳石室完掘（西から）



2 飯氏古墳群B 12号墳石室奥壁（西から）



1 飯氏古墳群 B12号墳石室羨道部（東から）



2 飯氏古墳群 B12号墳石室左側壁（南から）



3 飯氏古墳群 B12号墳石室右側壁（北から）



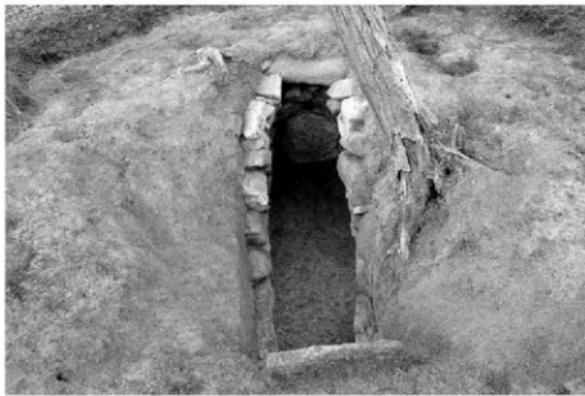
1 飯氏古墳群B 12号墳石室奥壁側トレンチ（東から）



2 飯氏古墳群B 12号墳石室右側壁側トレンチ（南から）



3 飯氏古墳群B 12号墳石室右羨道側トレンチ（北から）



1 飯氏古墳群 B13号墳石室完掘（北から）

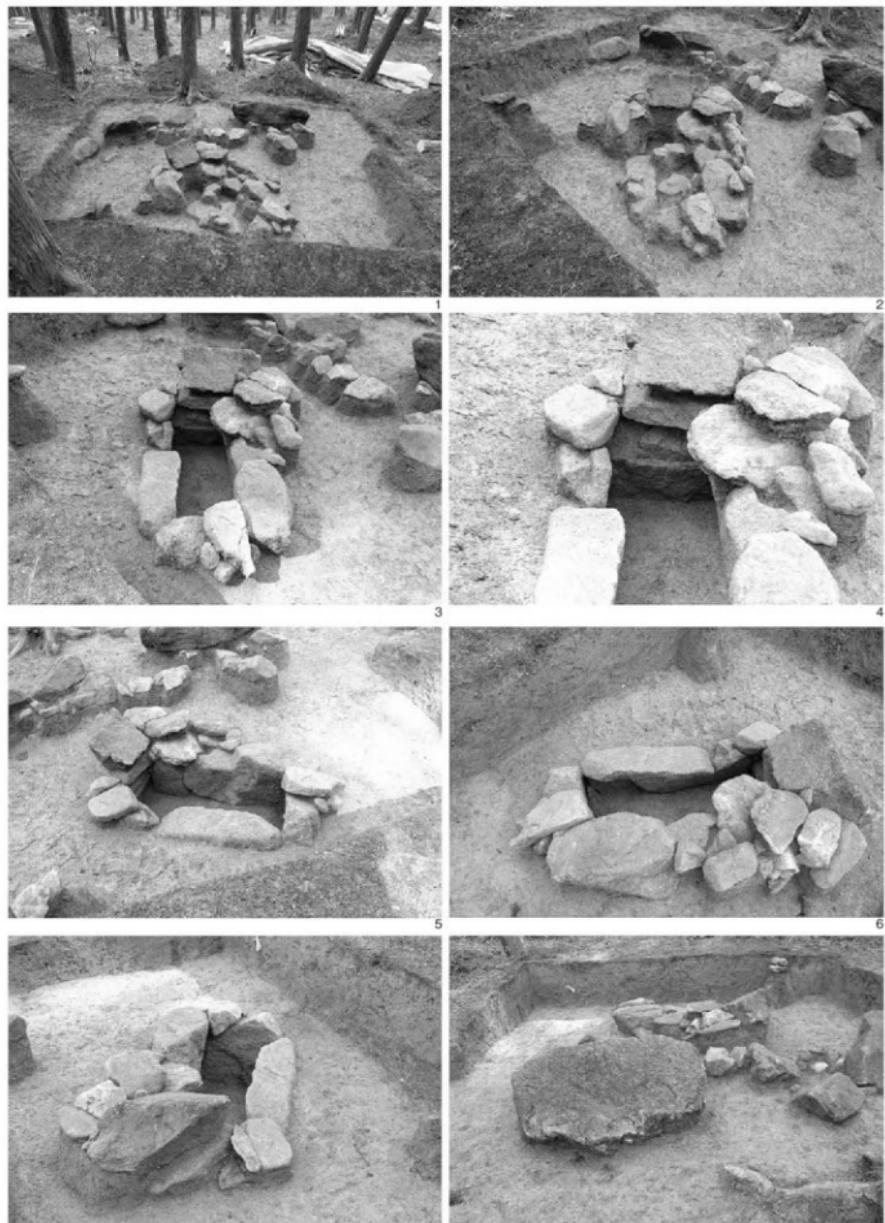


2 飯氏古墳群 B13号墳石室奥壁（北から）



3 飯氏古墳群 B13号墳石室左側壁（西から）

4 飯氏古墳群 B13号墳石室右側壁（東から）



1 STO1周辺掘り下げ（西から）
2 STO1完掘（南から）
3 STO1側壁側1（西から）
4 STO1小口側1（南から）
5 STO1小口側2（北から）
6 STO1側壁側2（東から）
7 STO1天井石（東から）



1 飯氏古墳群B 12号墳北新規古墳現況（北から）



2 飯氏古墳群B 12号墳北新規古墳石室清掃後（北から）

III 女原古墳群D群1次調査の記録

1. 調査地点の位置と周辺環境

女原古墳群は徳永古墳群から谷を隔てて東側丘陵の西側斜面に分布する。これまでにAからE群までの5群81基が知られていた。平成16年度からの分布調査で新たに18基が確認され、計99基の古墳からなる古墳群であることが判明した。女原古墳群での調査例はほとんどないが、C群には前方後円墳が含まれる。C14号墳は小松原1号墳とも呼ばれ、標高約45mの丘陵上に立地し、全長約30mとされる。詳細は不明である。古墳群の北側で調査された今宿小塚古墳は径30mの円墳とされる。古墳群の北側には女原上ノ谷製鉄址がある。これまでの調査で炉壁や鉄滓を検出している。製鉄炉は検出できなかったが、周辺の遺構からは6世紀後半の土器が出土している。古墳群との関連を含めて注目される。

2. 調査の記録

1) 調査の経過

今回調査を行ったD群は古墳群の南端側にあたる。D群はこれまでに41基が知られていたが、新たに11基が確認され、計52基となった。D群は標高約80~100m程の丘陵部に立地する。この古墳群には前方後円墳は含まれないが、それぞれの古墳が非常に近接して造られており、密集型の群集墳といえる。中でも今回の調査地点の古墳は墳丘の残りもよく、石室も現状で観察できることから、現況の測量調査を中心に、石室の記録を行った。測量の広さは約1,620m²となる。調査は平成22年2月16日から3月12日にかけて実施した。

2) 調査の概要

今回調査地点では14基の円墳を確認した。古墳は墳丘裾を接するように造られている。墳丘規模は直径10m程である。石室は横穴式石室で、すべて開口した状態であった。36号墳は調査区南西端に位置する。低墳丘で、石室の天井石は抜き取られているが、平面形は羽子板形を呈する。長さ約2.5m、奥壁幅約1.4mを測る。25号墳は調査区の南端部にあたる。低墳丘で、石室の天井石は抜き取られているが、平面形は羽子板形を呈する。長さ約2.5m、奥壁幅約1.2mを測る。石室の形態から築造時期は6世紀前半と考えられる。37号墳は調査区北端に位置する。天井石は抜き取られているが、奥壁は天井付近まで残る。高さは約2.5mを測る。玄室は玄門側がやや広い台形を呈し、長さ2.0m、奥壁幅1.6m、玄門側幅1.9mを測る。32号墳は調査区西側に位置する。玄室の天井部は遺存しているが、羨道の天井石の一部が抜き取られている。玄室の平面形は横長の長方形を呈し、長さ1.6m、幅2.1m、高さ約1.5mを測る。副葬品は確認することはできなかったが、石室の形態などから築造時期は6世紀後半から7世紀と考えられる。

3) 小結

今回調査した女原古墳群D群は6世紀代の古墳50基余りが狭い範囲に分布する、密集型の群集墳である。築造の時期は6世紀前半には開始しており、以後継続的に築造されているようである。女原古墳群の東側にある相原古墳群も同様の分布状況が見られる。一方で、先に述べた飯氏古墳群は異なる様相にあり、今宿地区の古墳群の形成過程を考える上で興味深い。今宿古墳群以後のこの地域の情勢はこれらの群集墳の動向と密接に関連しており、今後の更なる調査が必要となろう。

女原古墳群D群一覧

| 番号 | 墓形 名稱 | 墳丘形 状 | 墳丘高 (m) | 墳丘幅 (m) | 主体部 形態 | 主体部長 (m) | 主体部最 大幅 (m) | 主体部高 (m) | 石室開 口方向 | 主軸 方位 | 墳丘現況 | 主体部現 況 | 備考 | 座標 X | 座標 Y | |
|----|----------|----------|------------|------------|------------|-------------|-------------------|-------------|------------|---------------------|---|-----------|----|-----------|-----------|-----------|
| 1 | 1号墳 | 円錐 | 10.8 | 2.2 | 横穴式 石室 | 1.6 | 1.6 | | 北西 | 馬蹄形溝 | 玄室天井部残存 | | | 62312.221 | 68238.088 | |
| 2 | 2号墳 | 円錐 | 8.6 | 2.0 | 横穴式 石室 | 2.1 | 1.6 | 2.1 | 北西 | 墳丘盛土突出 馬蹄形溝 | 右室生存 | | | 62329.296 | 68240.734 | |
| 3 | 3号墳 | 円錐 | 8.2 | 1.9 | 横穴式 石室 | 1.9 | 1.6 | 1.7 | 北西 | | 玄室天井部残存, 天井部の一部が 剥離 | | | 62365.662 | 68232.182 | |
| 4 | 4号墳 | 円錐 | 9.4 | 1.3 | 横穴式 石室 | | | | 西 | | 石室の裏面の石材 は抜き取られている 蓋壁側は天井石が 残存 | | | 62380.621 | 68236.744 | |
| 5 | 5号墳 | 円錐 | 6.1 | 0.9 | 横穴式 石室 | 0.9 | 0.7 | | 南西 | | | | | 62411.358 | 68222.122 | |
| 6 | 6号墳 | 円錐 | 5.9 | 0.5 | 横穴式 石室 | | | | 南西 | | 右室残存 | | | 62420.748 | 68184.492 | |
| 7 | 7号墳 | 円錐 | 5.6 | 1.3 | 横穴式 石室 | 1.3 | 1.7 | | 南西 | | 玄室天井部残存 | | | 62427.082 | 68207.473 | |
| 8 | 8号墳 | 円錐 | 6.3 | 0.8 | 横穴式 石室 | | 0.9 | | 南西 | 馬蹄形溝 | 玄室天井部残存, 左通は復元 | | | 62402.075 | 68213.149 | |
| 9 | 9号墳 | 円錐 | 5.4 | 0.8 | 横穴式 石室 | 1.0 | 1.0 | | | 墳丘半削平 | 天井部破壊、左通 は復元 | | | 62433.838 | 68213.196 | |
| 10 | 10号墳 | 円錐 | | | 横穴式 石室 | 1.7 | 1.7 | 1.8 | 北西 | 墳丘の一部削平 | 馬蹄形溝、玄室天 井石室 | | | 62450.126 | 68195.982 | |
| 11 | 11号墳 | 円錐 | 9.1 | 1.3 | 横穴式 石室 | 1.6 | 1.6 | | 北西 | 墳丘削平 | 天井部破壊、左通 は復元 | | | 62442.637 | 68218.482 | |
| 12 | 12号墳 | 円錐 | 7.0 | 1.5 | 横穴式 石室 | | 1.0 | 1.5 | 南西 | 墳丘盛土突出 | 右室天井石は抜き 取り | | | 62430.431 | 68197.636 | |
| 13 | 13号墳 | 円錐 | 5.9 | 1.0 | 横穴式 石室 | | | | 南西 | | 玄室天井部残存 | | | 62430.421 | 68195.573 | |
| 14 | 14号墳 | 円錐 | | | 石室か | | | | | | 大樹の集積 | | | 62473.963 | 68197.103 | |
| 15 | 15号墳 | 円錐 | | | 石室か | | | | | | 大樹の集積 | | | 62490.292 | 68200.025 | |
| 16 | 16号墳 | 円錐 | | | 横穴式 石室 | | | | | 墳丘削平 | 条壁、側壁露出 | | | 62385.332 | 68146.915 | |
| 17 | 17号墳 | 円錐 | | | | | | | | | | | | | | |
| 18 | 18号墳 | 円錐 | 6.4 | 0.7 | 横穴式 石室 | | | | 北東 | 馬蹄形溝 | 右室天井部復元 | | | 62392.695 | 68163.285 | |
| 19 | 19号墳 | 円錐 | 6.2 | 1.0 | 横穴式 石室 | | | | | 墳丘一部削平 馬蹄形溝 | 右室露出 | | | 62394.189 | 68150.297 | |
| 20 | 20号墳 | 円錐 | | | 石室か | | | | | | 右室残存 | | | | | |
| 21 | 21号墳 | 円錐 | | | 石室か | | | | | | 右室残存 | | | | | |
| 22 | 22号墳 | 円錐 | | | | | | | | | | | | | | |
| 23 | 23号墳 | 円錐 | | | | | | | | | | | | | | |
| 24 | 24号墳 | 円錐 | 6.7 | 0.9 | 横穴式 石室 | | | | | 墳丘一部削平, 右室破壊 | 馬蹄形溝に石材散布 右室天井石取り | | | 62443.616 | 68157.142 | |
| 25 | 25号墳 | 円錐 | 5.6 | 0.7 | 横穴式 石室 | 2.5 | 1.2 | | | 墳丘一部削平 馬蹄形溝 | 美室上部露出 | | | 62443.616 | 68157.142 | |
| 26 | 26号墳 | 円錐 | 6.5 | 1.6 | 横穴式 石室 | 2.0 | 1.3 | 1.7 | 西 | 墳丘一部削平 | 右室生存 | | | 62449.562 | 68164.046 | |
| 27 | 27号墳 | 円錐 | 6.7 | 0.9 | 横穴式 石室 | | | | | | 右室残存 | | | 62451.340 | 68155.720 | |
| 28 | 28号墳 | 円錐 | 7.3 | 1.2 | 横穴式 石室 | 1.9 | 1.6 | | 西 | | 右室生存 | | | 62456.341 | 68164.796 | |
| 29 | 29号墳 | 円錐 | 11.5 | 1.2 | 横穴式 石室か | | | | | | 右室抹手跡 | | | 62459.962 | 68151.349 | |
| 30 | 30号墳 | 円錐 | 7.2 | 1.4 | 横穴式 石室 | | | | 北東 | 墳丘一部削平 | 右室抹手跡 | | | 62467.784 | 68176.639 | |
| 31 | 31号墳 | 円錐 | 11.1 | 1.5 | 横穴式 石室 | | | | | | 右室抹手跡 | | | 62461.102 | 68157.042 | |
| 32 | 32号墳 | 円錐 | 9.1 | 2.3 | 横穴式 石室 | 1.6 | 2.1 | | 東 | 馬蹄形溝 | 玄室天井部残存, 左通復元 | | | 62475.861 | 68176.300 | |
| 33 | 33号墳 | 円錐 | 11.3 | 1.7 | 横穴式 石室 | | | | 西 | 馬蹄形溝 | 右室抹手跡 | | | 62470.073 | 68163.123 | |
| 34 | 34号墳 | 円錐 | 4.3 | 1.0 | 横穴式 石室 | | | | | | 右室抹手跡 | | | 62479.857 | 68177.386 | |
| 35 | 35号墳 | 円錐 | | | 横穴式 石室 | 1.6 | 0.9 | | 北西 | 外周削石, 馬蹄形溝 | 右室抹手跡 | | | 62474.565 | 68159.637 | |
| 36 | 36号墳 | 円錐 | 8.0 | 1.1 | 横穴式 石室 | | 2.5 | 1.4 | 南東 | 馬蹄形溝 | 右室抹手跡 | | | 62486.454 | 68180.727 | |
| 37 | 37号墳 | 円錐 | 12.1 | 2.2 | 横穴式 石室 | | 2.0 | 1.6 | 北東 | 馬蹄形溝 | 玄室天井部残存, 右室抹手跡 | | | 62482.906 | 68163.316 | |
| 38 | 38号墳 | 円錐 | 10.7 | 2.6 | 横穴式 石室 | | | | | | 右室抹手跡 | | | 62490.000 | 68160.986 | |
| 39 | 39号墳 | 円錐 | 12.4 | 1.6 | 横穴式 石室 | | | | | 馬蹄形溝 | 右室は削平 | | | 62506.289 | 68170.514 | |
| 40 | 40号墳 | 円錐 | 16.0 | 4.5 | 横穴式 石室 | 4.0 | 2.4 | 1.8 | 24 | 西 | 墳丘に足湯の廻 が彫込まれる。右室 右室抹手跡 | | | 62546.036 | 68196.336 | |
| 41 | 41号墳 | 円錐 | 8.5 | | 石室か | | | | | 墳丘の北側削平, 手前に塗り込み | 塗り込みに石材散布 | | | 62618.757 | 68201.329 | |
| 42 | 新規1 | 円錐 | | | 石室か | | | | | | | 大樹の集積 | | | 62459.698 | 68195.043 |
| 43 | 新規2 | 円錐 | | | 石室か | | | | | | 大樹の集積 | | | 62474.533 | 68204.035 | |
| 44 | 新規3 | 円錐 | 6.2 | 0.9 | 横穴式 石室 | 3.9 | 1.9 | | | 馬蹄形溝 | 玄室天井部残存, 左通復元 | | | 62407.006 | 68203.811 | |
| 45 | 新規4 | 円錐 | 6.0 | 1.4 | 横穴式 石室 | | 2.1 | 1.9 | 1.9 | 南西 | 馬蹄形溝 | 右室生存 | | | 62423.507 | 68201.881 |
| 46 | 新規5 | 円錐 | 6.8 | 2.1 | 横穴式 石室 | | | | | | 馬蹄形溝 | | | 62436.270 | 68204.930 | |
| 47 | 新規6 | 円錐 | | | 横穴式 石室 | | 2.3 | 1.7 | | 南西 | 墳丘半分が埋没 | 玄室天井部残存 | | | 62327.064 | 68212.367 |
| 48 | 新規7 | 円錐 | 9.2 | 0.9 | 不明 | | | | | | 鉄礫丘 | | | 6251.962 | 68185.245 | |
| 49 | 新規8 | 円錐 | | | 横穴式 石室 | | | | | | 馬蹄形溝 | 玄室天井部残存 | | | 62299.458 | 68247.505 |
| 50 | 新規9 | 円錐 | 13.0 | 2.8 | 横穴式 石室 | | 1.6 | 1.6 | | | 馬蹄形溝 | 右室生存 | | | 62525.804 | 68166.452 |
| 51 | 新規10 | 円錐 | 8.5 | | 石室か | | | | | | 墳丘の一部削平 | 石材散布 | | | 62474.981 | 68206.472 |
| 52 | 新規11 | 円錐 | 10.2 | 1.2 | 石室か | | | | | | | 石材散布 | | | 62511.531 | 68204.852 |



Fig. 10 女原古墳群分布図 (1/5,000)

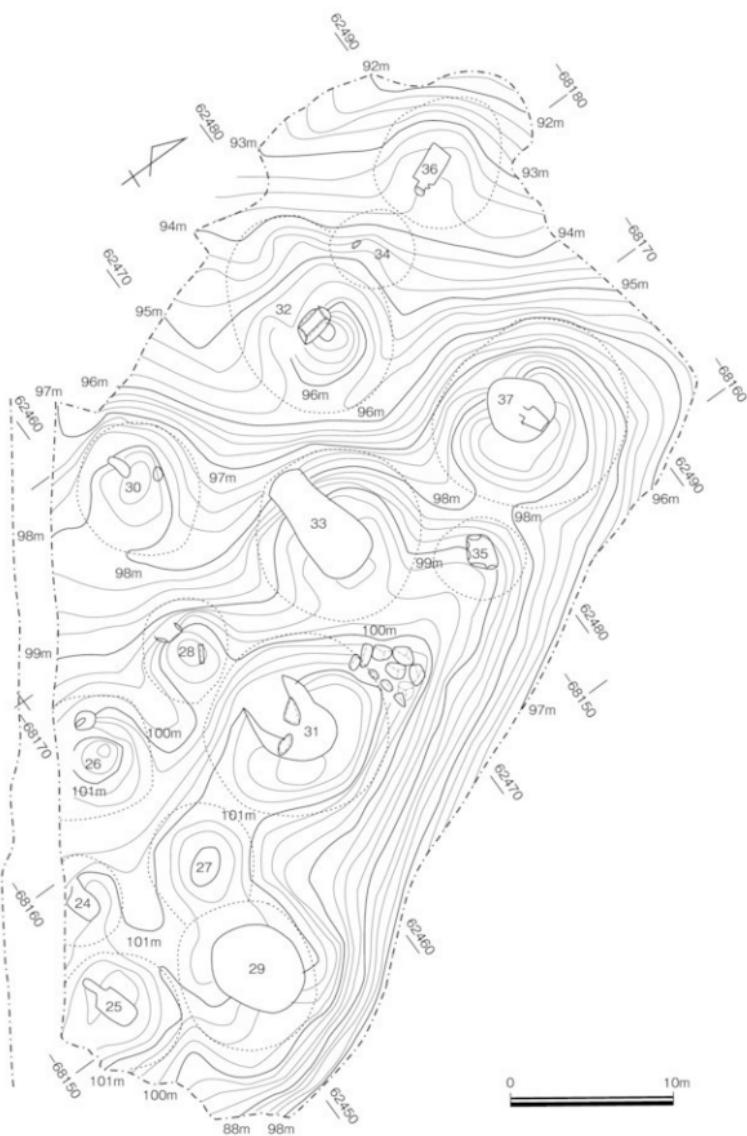


Fig. 1.1 女原古墳群D群1次調査地点現況測量図（1/300）

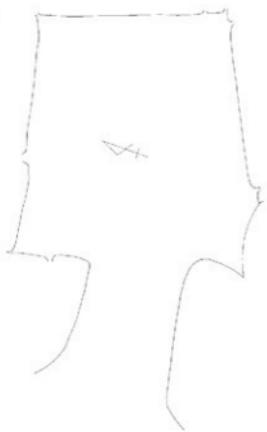
36号



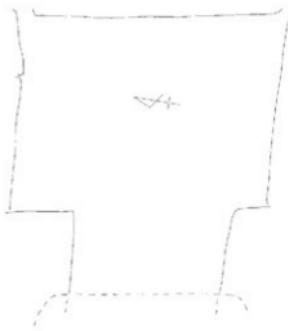
25号



37号



32号



0 1m

Fig.12 女原古墳群D群1次調査地点石室平面実測図 (1/40)



1



2



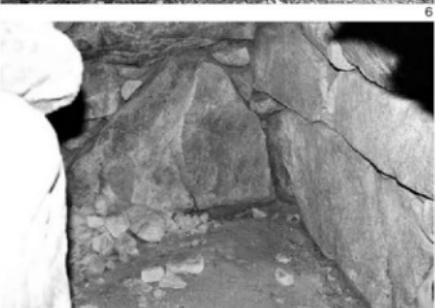
3



4



5



6



7

1 女原古墳群D群現況（南から）

3 女原古墳群D群 25号埴石室現況1（南から）

5 女原古墳群D群 25号埴石室現況3（南から）

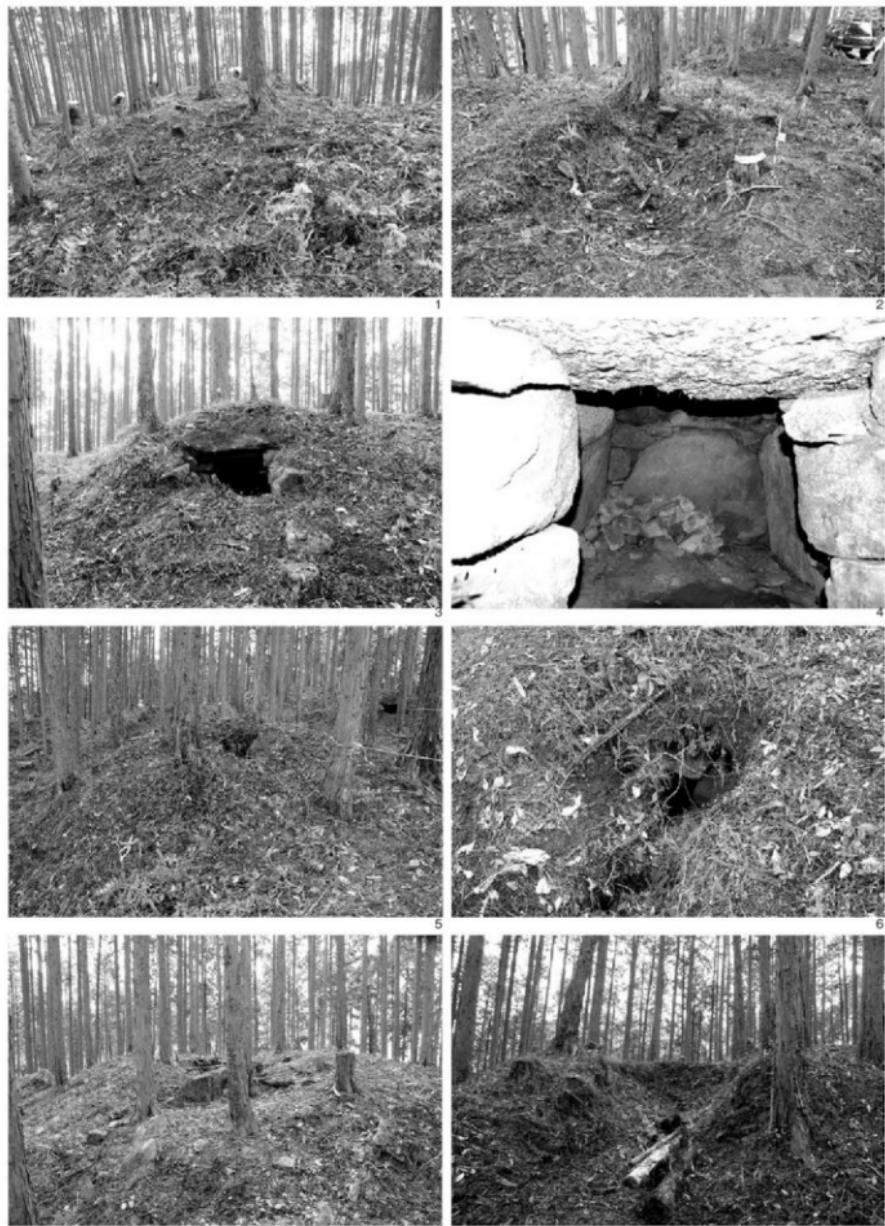
7 女原古墳群D群 26号埴石室現況（南から）

2 女原古墳群D群 24号埴現況（南から）

4 女原古墳群D群 25号埴石室現況2（北から）

6 女原古墳群D群 26号埴現況（南から）

8 女原古墳群D群 26号埴石室内（南から）



1 女原古墳群D群 27号墳現況（南から）
2 女原古墳群D群 28号墳石室現況（西から）
3 女原古墳群D群 30号墳現況（西から）
4 女原古墳群D群 31号墳現況（南から）

5 女原古墳群D群 28号墳石室内（西から）
6 女原古墳群D群 30号墳奥壁側隙溝坑（西から）
7 女原古墳群D群 31号墳現況（西から）



1 女原古墳群D群 32号墳石室現況(西から)

3 女原古墳群D群 34号墳現況(北から)

5 女原古墳群D群 36号墳石室現況(南から)

7 女原古墳群D群 37号墳石室奥壁部(西から)

2 女原古墳群D群 32号墳石室内(西から)

4 女原古墳群D群 36号墳現況(南から)

6 女原古墳群D群 37号墳石室現況(西から)

8 女原古墳群D群 37号墳石室奥壁(西から)

参考文献

- 1) 柳沢一男「今宿の前方後円墳」『丸隈山古墳II』(福岡市埋蔵文化財調査報告書第146集) 1986
- 2) 福岡市教育委員会「山ノ鼻1号墳」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第309集』1992
- 3) 福岡市教育委員会「山ノ鼻2号墳」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第353集』1993
- 4) 福岡県教育委員会「若八幡宮古墳」『今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告書第2集』1971
- 5) 福岡市教育委員会「鷺崎古墳」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第112集』1984
- 6) 福岡市教育委員会「鷺崎古墳」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第730集』2002
- 7) 福岡市教育委員会「丸隈山古墳」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第10集』1970
- 8) 福岡市教育委員会「丸隈山古墳II」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第146集』1986
- 9) 福岡市教育委員会「兜塚古墳」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第474集』1996
- 10) 福岡市教育委員会「兜塚古墳2」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第833集』2005
- 11) 福岡市教育委員会「飯氏二塚古墳」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第435集』1995
- 12) 福岡市教育委員会「飯氏二塚古墳2」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第780集』2003
- 13) 柳沢一男「今宿大塚古墳」『福岡平野の歴史・緊急発掘された遺跡と遺物・原始時代～江戸時代』1977
- 14) 福岡市教育委員会「飯氏古墳群B群第14号古墳」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第584集』1998
- 15) 福岡市教育委員会「飯氏古墳群B群第14号墳調査報告書（2）」
『福岡市埋蔵文化財調査報告書第615集』1999
- 16) 福岡市教育委員会「徳永アラタ古墳」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第56集』1980
- 17) 徳永古墳群調査会「徳永古墳群3・女原上ノ谷製鉄址」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第436集』1995
- 18) 福岡市教育委員会「徳永古墳群4」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第913集』2006
- 19) 福岡市教育委員会「徳永古墳群5」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第1020集』2008
- 20) 福岡県教育委員会「今宿小塚遺跡」『今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告書第5集』1977
- 21) 小田富士雄「新開窯址」『福岡県百科事典』1982 西日本新聞社
- 22) 福岡県教育委員会「今宿古墳群」『福岡県文化財報告書第38集』1969
- 23) 福岡市教育委員会「谷上古墳」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第499集』1997
- 24) 福岡市教育委員会「相原古墳群」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第28集』1974
- 26) 福岡市教育委員会「相原古墳群2」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第351集』1993
- 27) 福岡市教育委員会「鷺崎古墳群2」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第506集』1997
- 28) 福岡市教育委員会「鷺崎古墳群3」『福岡市埋蔵文化財調査報告書第697集』2001
- 29) 福岡市教育委員会「福岡市文化財分布地図（西部II）」1995
- 30) 菅波正人「江藤正澄と鎮西博物館」『福岡市博物館研究紀要第16号』2006 福岡市博物館

報告書抄録

| | |
|---------|---|
| 書名ふりがな | いいじこふんぐんさん・みょうばるこふんぐんいち |
| 書名 | 飯氏古墳群3・女原古墳群1 |
| 副書名 | 今宿古墳群関連確認調査報告 |
| シリーズ名 | 福岡市埋蔵文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第1108集 |
| 編著者名 | 菅波正人 |
| 編集機関 | 福岡市教育委員会 |
| 発行機関 | 福岡市教育委員会 |
| 発行年月日 | 20110318 |
| 作成法人ID | |
| 郵便番号 | 810-0001 |
| 電話番号 | 092-711-4667 |
| 住所 | 福岡市中央区天神1-8-1 |
| 遺跡名ふりがな | いいじこふんぐんびーぐん、みょうばるこふんぐんでいぐん |
| 遺跡名 | 飯氏古墳群B群、女原古墳群D群 |
| 所在地ふりがな | ふくおかにしきいいじ、みょうばる |
| 遺跡所在地 | 福岡市西区飯氏、女原地内 |
| 市町村コード | 401358 遺跡番号 |
| 北緯 | 335635、335641 |
| 東経 | 1302508、1302508 |
| 調査期間 | 2009.2.9-3.18、2010.2.16-3.12 |
| 調査面積 | 30m ² 、1620m ² |
| 調査原因 | 確認調査 |
| 種別 | 古墳 |
| 主な時代 | 古墳時代 |
| 遺跡概要 | 飯氏古墳群B群3次 遺構 円墳2基、小石室1基 遺物 弥生土器、須恵器、土師器等の土器類、鉄釘など 女原古墳群D群1次 遺構 円墳14基 |
| 特記事項 | 飯氏古墳群B群では5世紀後半から6世紀前半にかけての堅穴系の小石室を確認した。これらの古墳は隣接する6世紀中ごろの前方後円墳である飯氏古墳群B群14号に先行するものであり、古墳群形成過程を考える上で重要である。女原古墳群D群は2,000m ² 程度の広さに20基ほどが分布する密集型の群集墳である。平野内の他の古墳群と比較する上で重要なものである。 |

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1108集

飯氏古墳群3・女原古墳群1

-今宿古墳群関連確認調査報告-

2011年3月18日

発行 福岡市教育委員会

(福岡市中央区天神1-8-1)

印刷 株式会社エージェント

(福岡市中央区高砂1-20-2)